

学校と地域をむすぶ

大津市立葛川小・中学校

かけはし

地域コーディネーターだより

2015. 1. 28

NO. 6

KTふれあいの輪

1月14日、葛川市民センターにおいて「KTふれあいの輪」が行われました。葛川（KaTsuragawa）久多（KuTa）の「K」と「T」を取り名付けられ昨年度から始まった「KTふれあいの輪」は、2回目を迎えました。小中学生が学習したり体験したりしたことを地域の方々に知っていただいたり、懇話会や料理作り教室を通して地域の方々とふれあい、地域の一員としての自覚を持つことができることを考え、企画してきました。当日、朝早くから健康推進協議会の方が準備をしてくださったり、たくさんの地域の方々にお願いいたしました。



料理作り教室～楽しくトッピング～



小学校1～4年生は、料理作り教室で健康推進協議会の方々に教えていただき、ちらし寿司を作りました。錦糸卵やしいたけ、グリーンピース、かんぴょうなどの大量の具材を、朝早くから健康推進協議会の方が作って下さいました。子どもたちはお皿にすし飯を盛って、その上に色とりどりの具をデザインを考えながらのせていきました。「ごはん、よそたげるわ」「この上にこれのせてみたら?」「わあ、きれいにできたなあ」など、アドバイスやお



褒めの言葉をいただき、子どもたちも大はりきりです。使う具材は同じでも、それぞれの子どもの思いで、図工の作品を作るように、こだわり、楽しみながらトッピングをする子どもたち。はじめは何ものっていない真っ白なお皿がひしめきあって机の上に並んでいて、時間内に全部盛りつけることができるだろうかと心配していましたが、みるみるうちにそのお皿はカラフルなちらし寿司に変わっていきました。昼食の時



間になると、2階までちらし寿司やお茶を運んだり、もう一つのメニューのすまし汁をお椀によそい運んだり、たくさんの仕事をすることができました。その後いただいたちらし寿司のお味は格別で、ぺろりとおいしくいただきました。

焼き上がった薄焼き卵をどどんごるの裏にのせ、くるくる丸めて細く切ったり、大きな桶の中のすし飯をまぜながらうちわであおいだりするなど、家庭では考えられないぐらいの大量の下準備を手際よく進めていられる健康推進協議会の方々の技に感動しました。ありがとうございました。

体験発表会～自信を持って伝える～

午前中、2階の会場では、小学校5・6年生と中学生の体験発表が行われました。たくさんの地域の方々に前にやや緊張気味の子どもたちでしたが、この一年間で学んだことや体験したことなどを自信を持ってたくさんの地域の方々に伝えることができました。

小学校5年生 「お米物語」

学校の運動場のすみに作った田んぼで体験したことを発表。代かきに始まり、田植え、肥料まき、稲刈りなど作業のやり方やポイントを用務員の朝田さんに教えていただきながら、お米を収穫することができました。「秋の唄」の苗をくださったり、脱穀・精米をしていただいたのは調理員の岡本さんです。収穫したお米を炊いておにぎりにして保育園の子どもたちといっしょにいただきました。自分たちの手で田を作り、生長する稲の世話をを行うことにより、手で作業することの大変さを感じることができました。苦勞して育てて収穫したお米から作ったおにぎりは、今までに食べた中で一番おいしかったそうで、お米の大切さも保育園の子どもたちに伝えることができました。

小学校6年生 「夢プロジェクト」

6年生は、一学期に行った「夢プロジェクト」を通して学んだことを発表しました。「夢プロジェクト」は、ゲストティーチャーの方々から、仕事や生き方などについて話を聞いたり体験させてもらったことを通して、今後の進路を考えたり自分の生き方に生かすという学習です。ゲストティーチャーは、葛川・久多の地域の方々から7人、京都市動物園の飼育員の方を含めて計8人の方でした。比良山荘の伊藤さんからは相手の心をよまなければならない「おもてなし」の大切さを、そぼうちの奥出さんからは一度身につけると失うことのない技術の大切さ、大工の入江さんからはたくさんの知識や道具を使い家を建てることのできる技術のすばらしさ、しいたけ農園の足立さんからは、この仕事が好きだからこそ苦勞しても続けていけること、カフェ猪鹿村の椎葉さんからはカフェや漁業組合の仕事を一人で切り盛りする大変さやそれをやりこなしておられるすごさを、写真家の宮田さんからは1枚の写真を撮るために何百枚という写真を撮り、常に最大限の力を出しておられること、陶芸家の川瀬さんからは失敗したりいやになったりすることを乗り越えながら、自分のやりたいことを貫き通しておられるすごさを、

そして動物園の飼育員の和田さんからはいろいろな経験を生かして今の仕事をしていることを学ぶことができました。一人ひとりの方から聞いたお話や体験させていただいたことを通して、4人の子どもたちはそれぞれ受け止め方や感じ方は異なりながらも、これからの長い人生を考えていく上での大きなアドバイスになったことだと思います。

中学3年生「ドキュメンタリー ～葛川、久多の祭礼～」

昔から続く葛川の「太鼓廻し」、久多の「松上げ」「花笠踊り」の伝統的な祭りについて調べたり、聞いたり、体験したりしたことをドキュメンタリーの映像にまとめ上げました。

「太鼓廻し」。葛野常喜さんにインタビューをして教えていただいたことや、実際に祭りを見に行き自分の目で確かめたことから、太鼓廻しの奥深さやよさを感じることができました。たくさんの人が集まるこの祭りが好きで、このドキュメンタリーを見た人々に興味を持ってもらい、是非来年の7月18日の祭りに来てほしいという願いを投げかけました。

「松上げ」と「花笠踊り」。上河原さんにインタビューをして、祭りの由来や歴史などについて教えていただきました。実際の「松上げ」は大雨で中止になりましたが、その準備や花笠踊りの様子をビデオに収めながら、準備の大切さや祭りににぎやかさを感じることができました。若い人が少なくなっていく、このような伝統行事の存続が危ぶまれている現状を知り、大人になって自分が地元を離れることになっても、毎年帰ってきてこの祭りを続けたり、イベントを増やして地域を盛り上げていきたいという力強い言葉が印象的でした。どちらの祭りも、自分たちで知りたいことを中心に取材したり、実際に体験したりしたことをもとに、構成を考えたり、自作の音楽を入れたりしながら、自分たちの手でまとめ上げた映像です。作りながら感じたことは地域に対する思いや伝統を守り続ける大変さ。地域の一員としてこの思いを発信することができたのは、地域を盛り上げていく大切なスタートになったのではないのでしょうか？

中学1・2年生 「葛川学区のゆるキャラづくり」

昨年の「KTふれあいの輪」の懇話会を受けて、地域の活性化のために何ができるかを生徒会を中心に考えました。その結果、「ゆるキャラ」を作って、多くの人に葛川や久多のことを知ってもらおうということになりました。中学校1・2年生は、この「ゆるキャラ」について発表・紹介しました。4月から「ゆるキャラ」作りのために何度も話し合いを持ち、夏には地域に向けて「ゆるキャラ」の募集を呼びかけました。たくさんの応募作品をもとに、生徒会を中心にデザインをして、ついに葛川と久多の「ゆるキャラ」が誕生しました。「かっざる」と「くたざる」です。

「かっざる」と「くたざる」は双子ざるで、葛川と久多のように仲がよいのです。それぞれの「ざる」には、葛川と久多の特徴が盛り込まれています。



サロペットの模様になっています。そして手に持っているのはひっかけの竿。

この完成した「ゆるキャラ」は、葛川の「あけぼの橋」や久多の駐在所の新聞に載せてもらったり、看板を作ったりすることになりました。今後、いろいろなところで、この「かっざる」と「くたざる」がお目見えすることかと思えます。よろしくお願います。

葛川の「かっざる」は、太鼓廻しの衣装であまごつりをしています。肩からかけたかばんの中には、お祭りの時に歩いてこられるお坊さんがくださる飴やキャラメルが入っています。

一方、「くたざる」はほっぺに久多マークが入り、久多でたくさん栽培されているきれいな菊の花が



おいしいお昼ご飯



昼食は、健康推進協議会の方々で作ってくださった具を小学校1～4年生がすし飯にトッピングしたららし寿司とすまし汁です。中学生と小



学校5～6年生は地域の方々といっしょにグループに分かれて食べました。もうすでにお昼を食べながらいろいろな話が持ち上がり、緊張感もほぐれていきました。見た目もかわいいちらし寿司、体あったまるすまし汁をとともおいしくいただきました。



懇話会～話のつきない盛り上がり～

午後は、中学生、小学校5～6年生と地域の方々との懇話会です。今年のテーマは「地域の防災を考えよう」です。葛川は、坊村以南、町居以北の2グループで、久多は1グループで話し合いが持たれました。進行は中学生が担当しました。まずは、机の上に広げられた各グループの地域の地図を見ながら、一次避難場所を確認しました。そして、それぞれが危険箇所を付箋に書き込み、地図に貼っていきました。近年の台風による被害の記憶もまだ新しく、実際の場所を思い浮かべながらどんどん付箋が貼られていきました。「土砂くずれ」「木がたおれる」「水があふれる」など危険な箇所は重なっています。それだけ、危険度も高く、みんなが心配している所なのだろうと思いました。小中学生が経験していない、



昔の災害の話なども聞きました。また、最近の台風による「避難勧告」についても注目されました。実際に避難しながらもとても危なかったこと、避難する方が危ないと判断し家に残ったこと、もしここの谷がずったら避難場所には行けないのでどうするか?など、実体験やいろいろな場合を想定した話がどんどん出されていきました。葛川や久多にはお年寄りの方が多いので、小中学生が手を引きながら避難を助けるという大きな役割も考えられます。避難場所と避難経路、そして危険箇所を地図上で見てみると、それらが重なり合っていて、危険な所をくぐりぬけながら避難しなければならないことも考えられました。1時間ほどの限られた時間でしたが、身近な地域の実態を知り、避難場所や経路の確認もすることができました。最後に、それぞれのグループで話し合ったこと、確認し合ったことなどを中学生がまとめて発表しました。災害はいつ起きるかわかりません。しかし、もしもの時のことを考えながら、日常から危険な箇所や避難の仕方などを考え訓練しておくことも必要です。そして、みんなが行動をともにしながら助け合い励ましあいながら自分たちの身を守っていくことが大切であることを確認できたことかと思えます。子どもたちも地域の一員として自分たちにできることを考えていかなければならない



とも思いました。この懇話会の中で、みんなで付箋をはったり書き込んでいった地域の地図や出された話をもとに、この後、生徒会を中心に防災マップを作っていきます。できあがった地図は、地域の皆様方に見ていただくことができることかと思えます。

たくさんの地域の方々に参加していただいた「KTふれあいの輪」。ふだんなかなか話をする機会の少ない小中学生も、地域の方々とふれあい、知り合う時間を持つことができました。そして、地域について考えるきっかけを作ることができました。昨年の懇話会を受けて誕生した「ゆるキャラ」のように、今年の懇話会

での話し合いが、今後の活動につながり、子どもたちがもっと地域に目を向けていくことができることを願っています。

「KTふれあいの輪」終了後、すぐに中学生と小学校5～6年生は振り返りの時間を持ちました。「昨年よりも緊張感がなくなった」「うまく話を進められた」と語ったのは、昨年の経験者。経験を積み重ねていくことにより、発表や進行などの力がついていくことと思います。今後も「KTふれあいの輪」が続いていくことを願っています。

ご参加いただいた地域の皆様方、健康推進協議会の方々、ありがとうございます。